

付属計画

那須烏山市



子ども読書活動推進計画

[第三期計画]



那須烏山市

目 次

第1章 計画策定にあたって	1
第1節 計画の趣旨.....	1
第2節 読書に関する意識調査.....	2
第2章 計画の基本的な考え方	11
第1節 計画の位置づけ.....	11
第2節 計画の対象.....	11
第3節 計画の期間.....	12
第3章 計画について	13
第1節 計画の基本方針.....	13
第2節 計画の基本理念と基本目標.....	13
第4章 主な取り組み	15
基本目標1 乳幼児期における子どもの読書活動の推進を目指します。…	15
(現状と課題)	
(取り組み)	
基本目標2 児童生徒期における子どもの読書活動の定着に努めます。…	16
(現状と課題)	
(取り組み)	
基本目標3 子どもの読書活動の推進に関する環境の整備を図ります。…	17
(現状と課題)	
(取り組み)	
第5章 資料	19

第 1 章 計画策定にあたって

第 1 節 計画の趣旨

読書は、人の豊かな情操や感性を育み、言語力や表現力、想像力や思考力を高める等の様々な効果があり、子どもたちの健やかな成長に欠かせないものです。

しかし近年、子どもたちを取り巻く環境は大きく様変わりしています。

社会構造の変化に伴う価値観や生活スタイルの変化は、子どもたちの読書への意識を大きく変えてきました。

また、テレビやビデオ、ゲームなど映像文化の浸透や、パソコンや携帯電話、スマートフォンなどインターネットの発達は子どもたちの「読書離れ」や「文字離れ」の一因となり、その結果、言語力や思考力の低下等に影響を及ぼしています。

読書は、例えば文章から情景を想像し、登場人物の感情を読み取るなどといった想像力を使う脳の働きを促します。映像は、それらの脳の働きを省略しダイレクトに認知されるため情報伝達のスピードや情報量が優れている反面、読書が生み出すような脳の働きを促す効果は少ないとされています。

子どもにとって読書とは、これからの人生を深く生きる力を身に付けていく上で、なくてはならない大切な活動です。

そのために、那須烏山市子ども読書活動推進計画〔第三期計画〕（以下、「本計画」という。）を策定しました。

※国・県の推進状況

国では、子どもの読書活動を推進するため、平成 13 年 12 月に子どもの読書活動を推進する法律を公布・施行し、平成 17 年 7 月には文字・活字文化振興法を成立。

2010 年（平成 22 年）を国民読書年とする決議案を平成 17 年 6 月に可決しました。

また、平成 19 年 6 月には学校教育法が改正され、義務教育として行われる普通教育の目標の一つとして、第 21 条第 5 号に「読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと」と掲げられています。

平成 30 年 4 月には第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画が閣議決定いたしました。

県では、栃木県子どもの読書活動推進計画（第四期）を策定し、平成 31 年度（2019 年度）から平成 35 年度（2023 年度）の 5 年間、県における子ども読書推進施策の方向性や取り組みを示します。

第2節 読書に関する意識調査

①子どもの読書活動についてのアンケート集計結果その1（那須烏山市）

実施時間 平成30年7月
調査対象 市内8箇所の幼稚園・保育園及び認定こども園児の保護者
対象者数 675人
回答者数 410人（回答率60.7%）

Q1 お子様の年齢はおいくつですか。

年齢	合計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳
人数	410	14	38	44	72	104	106	32

Q2 お子様は絵本や児童書が好きですか。

項目	合計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳
どちらかと言えば好き	362	11	33	44	62	95	87	30
あまり好きではない	25	0	1	0	6	4	12	2
わからない	23	3	4	0	4	5	7	0
合計	410	14	38	44	72	104	106	32

Q2の設問で「どちらかと言えば好き」と回答した362人の内、90%の325人がQ3の設問で読み聞かせを「する」と回答しました。また「あまり好きではない」と回答した25人の内、Q3の読み聞かせを「する」方は16人、「しない」方は9人でした。

「わからない」と回答した23人の内、Q3の読み聞かせを「する」方は11人、「しない」方は12人でした。

お子様が本に興味があり読み聞かせがしやすいためか、お子様に読み聞かせを続けた結果として本が好きなのか理由は明確ではありませんが、本の読み聞かせはお子様の読書活動に好影響を与えると見受けられます。

Q3 お子様に本の読み聞かせ（用語1）をしますか。

項目	合計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳
する	352	12	33	41	59	91	92	24
しない	58	2	5	3	13	13	14	8
合計	410	14	38	44	72	104	106	32

お子様に読み聞かせを「する」と答えた352人の内、92.3%の325人がお子様が「絵本や児童書がどちらかと言えば好き」とQ2の設問で回答しています。

読み聞かせを「しない」と答えた58人の内、63.7%の37人がお子様が「絵本や児童書がどちらかと言えば好き」と回答しています。

用語1：読み聞かせ

主に読み手が絵本などの絵を見せながら、子どもに対して音読することです。子どもの言語能力や想像力、情緒の発達等に効果があると言われています。

Q4 先月の読み聞かせの日数はどれくらいですか。

項目	合計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳
ほぼ毎日	87	2	9	10	22	25	17	2
週3日程度	107	7	11	8	11	30	35	5
週1日程度	112	3	8	20	21	23	28	9
月1～2日程度	46	0	5	3	5	13	12	8
合計	352	12	33	41	59	91	92	24

Q5 読み聞かせをしない理由はなぜですか。（複数回答）

項目	合計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳
時間がない	25	2	1	2	6	5	6	3
特に理由はない	17	0	3	0	6	4	4	0
子どもが自分で読むから	14	0	0	0	2	3	4	5
その他	12	0	2	2	0	3	3	2
合計	68	2	6	4	14	15	17	10

読み聞かせをしない理由は「時間がない」（全体の36.8%）、「特に理由はない」（全体の25%）、「子どもが自分で読むから」（全体の20.6%）、「その他」（全体の17.6%）の順で回答が多い結果となりました。

「その他」で、お子様が読み聞かせに興味がない回答は3人（全体の4.4%）でした。

Q6 1日当たりの読み聞かせの平均時間はどれくらいですか。

項目	合計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳
15分未満	251	9	24	27	41	64	66	20
15分～30分	95	3	9	13	18	22	26	4
30分～1時間	6	0	0	1	0	5	0	0
1時間以上	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	352	12	33	41	59	91	92	24

Q6の設問で全体の71.3%が1日当たりの読み聞かせをする時間が「15分未満」、27%の方が「15分～30分」と回答しています。

Q7 市立図書館を利用しますか。

項目	合計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳
利用する	228	7	15	13	34	65	73	21
利用しない	182	7	23	31	38	39	33	11
合計	410	14	38	44	72	104	106	32

Q7の設問で「利用する」と答えた228人（全体の55.6%）の内、Q2「お子様は絵本や児童書が好きですか」の設問で「どちらかと言えば好き」と答えたのは90.8%の207人でした。

また「利用する」228人の内、Q3「お子様に本の読み聞かせをしますか」の設問で「する」と答えたのは、89.5%の204人でした。

Q7の設問で「利用しない」と答えた182人（全体の44.4%）の内、Q2の設問で「どちらかと言えば好き」と答えたのは85.2%の155人でした。

「利用しない」182人の内、Q2の設問で「する」と答えたのは81.3%の148人でした。

市立図書館を利用すると回答した方は約9割、利用しないと回答した方でも8割以上の方が子どもは本が好きである。読み聞かせをしているという結果になりました。

Q8 先月の市立図書館の利用日数はどれくらいですか。

項目	合計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳
ほぼ毎日	1	0	0	0	0	1	0	0
週2～3日程度	8	0	1	0	2	0	3	2
週1日程度	54	1	4	3	9	16	19	2
月1～3日程度	163	6	10	10	23	48	50	16
年数日	1	0	0	0	0	0	1	0
合計	227	7	15	13	34	65	73	20

Q8の設問で市立図書館利用日数で最も多い回答は「月1～3日程度」（全体の71.8%）でした。

館内での資料貸出や各種イベント等の利用もありますが、図書の館外貸出期間が2週間と定められているためか2週間に1回のペースでの利用が多いようです。

※未回答あり。

Q9 市立図書館を利用しない理由はなぜですか。（複数回答）

項目	合計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳
時間がない	86	3	11	18	20	16	15	3
図書館が遠い	23	2	4	0	2	8	6	1
あまり本を読まない	10	0	1	1	3	4	1	0
特に理由がない	61	3	9	8	14	13	13	1
読みたい本・読ませたい本がない	1	0	0	0	0	1	0	0
その他	35	1	2	5	3	8	9	7
合計	216	9	27	32	42	50	44	12

図書館を利用しない理由は「時間がない」（全体の39.8%）、「特に理由がない」（全体の28.2%）、「その他」（全体の16.2%）、「図書館が遠い」（全体の10.6%）、「あまり本を読まない」（全体の4.6%）、「読みたい本・読ませたい本がない」（全体の0.5%）の順で回答が多い結果でした。

「その他」の回答で13人（全体の6.0%）の方が子どもが静かにできないため利用を控えているとのことでした。また市外在住のため利用されない方が6人（全体の2.8%）でした。

※平成28年度と29年度からさくら市と那珂川町、平成30年度から高根沢町との間で本市と図書館相互利用の協定を結び、相互の住民が図書の館外貸出が可能となりました。

② 子どもの読書活動についてのアンケート集計結果その2（那須烏山市）

実施時間 平成30年9月

調査対象 市内5校の小学5、6年生及び市内2校の中学1、2年生

対象者数 816人

回答者数 769人（回答率94.2%）

Q1 何年生ですか？

学 年	合計	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年
人 数	769	187	218	177	187

Q2 マンガや雑誌以外の読書をしますか？

項 目	合計	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年
する	517	160	159	115	113
しない	252	57	59	62	74
合 計	769	187	218	177	187

マンガや雑誌以外の本を読書する割合は全体の67.2%ですが、小学5年生の69.5%、小学6年生の72.9%、中学1年生の65.0%、中学2年生の60.4%と学齢が上がるに連れて減少する傾向にあります。

Q3 先月は何冊の本を読みましたか？（マンガや雑誌以外）

項 目	合計	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年
1～3冊	256	56	65	62	73
4～6冊	135	39	56	23	17
7～9冊	35	8	13	7	7
10冊以上	65	21	20	16	8
先月は読んでいない	26	6	5	7	8
合 計	517	130	159	115	113

先月（平成30年8月）は学校が夏季休暇であり、比較的自由な時間があると思われませんが全体的に1～3冊の読書冊数で、学齢が上がるに連れてその割合も増加傾向にあります。

Q4 マンガや雑誌以外の読書をしない理由は？（複数回答）

項目	合計	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年
時間がない	41	12	6	10	13
特に理由はない	109	28	18	29	34
他に楽しいことがある (ゲーム、TVなど)	119	23	37	28	31
その他	29	3	10	8	8
合計	298	66	71	75	86

全体で最も多い回答が「他に楽しいことがある（ゲーム、TVなど）」で40%、次いで「特に理由はない」が36.6%、「時間がない」が13.8%でどの学齢もほぼ同じ割合です。

その他では本を読むことが苦手や面倒である等の読書を好まない回答が16人でした。

※その他で未回答あり。

Q5 先月、市立図書館（烏山・南那須）に行きましたか？

項目	合計	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年
行った	393	102	108	90	93
行ってない	376	85	110	87	94
合計	769	187	218	177	187

先月（平成30年8月）は学校が夏季休業中で、市立図書館の利用が多く見込まれる時期でしたが、約半数の回答でした。

Q6 先月、図書館にどのくらい行きましたか？

項目	合計	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年
ほぼ毎日	4	1	1	1	1
週2～3日くらい	42	8	11	7	16
週1日くらい	74	25	17	17	15
月1～3日くらい	273	68	79	65	61
合計	393	102	108	90	93

学校が夏季休業中であり、市立図書館の利用が多く見込まれましたが、約半数は月1～3日の利用に止まりました。

Q7 先月、市立図書館に行かなかったのは？（複数回答）

項目	合計	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年
先月は行かなかった	95	22	29	21	23
時間がない	130	34	40	26	30
図書館が遠い	57	7	18	13	19
あまり本を読まない	70	17	18	15	20
特に理由がない	102	21	27	25	29
読みたい本があまりない	55	15	12	15	13
その他	50	11	22	8	9
合計	559	127	166	123	143

全体では「時間がない」の23.3%、「特に理由がない」の18.2%、「先月は行かなかった」の17.0%の順で回答が多く、どの学年でも「時間がない」という回答が最も多い結果でした。

その他では面倒という回答が多く、読書や図書館への興味が薄い傾向です。

※その他で未回答あり。

Q8 図書館で何をしていましたか？（複数回答）

項目	合計	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年
本を読む	323	98	95	79	51
勉強	172	36	39	42	55
友達と会う	118	22	30	30	36
その他	17	1	7	5	4
合計	630	157	171	156	146

全体では「本を読む」が51.3%と半数を占め、「勉強」が27.3%、「友達と会う」が18.7%の順で多い回答でした。夏季休業中であるため「勉強」や「友達と会う」回答も多いようです。

その他ではCDやDVDの貸出や視聴が多い回答でした。

※その他で未回答あり。

※設問の設定不備により、その他の自由記載で「本を借りる」などの回答が77人。

「本を読む」の回答者数に加えた。

③ 市民意向調査（那須烏山市）

平成 27 年度実施の「那須烏山市 これからのまちづくりに関する市民意向調査」で読書や図書館に関する調査結果のみ抜粋し要約。

調査時期：平成 27 年 11 月

調査対象：16 歳以上の那須烏山市民男女個人 2,000 人（内回答者数 675 人：回答率 33.8%）

Q1 普段の生活の中での読書について（単数回答：回答数 655）

○「ほとんどしない」が約 4 割で最多、次いで「月に数回する」が約 2 割でした。

（結果概要）

- ・ 10 代後半において半数の 50%が“読書をする”と回答
- ・ 20 代において比較的高い読書習慣（半数以上の 54.3%が“読書をする”と回答）
- ・ 30 代、70 代以上において低い読書習慣（約 6 割が“読書をしない”と回答）

Q2 一回の読書時間（単数回答：回答数 305）

○「15 分以上 1 時間未満」が約半数で最多、次いで「1 時間以上 3 時間未満」が約 3 割でした。

（結果概要）

- ・ 10 代後半では“15 分以上 1 時間未満”が最多の 48.8%
- ・ 20 代では“1 時間以上 3 時間未満”が最多の 44.2%

Q3 読書をすることの利点（複数回答：回答数 298）

○「知識が増える」が約 6 割で最多、次いで「考える力がつく」「楽しい気持ちになる」が約 3 割でした。

（結果概要）

- ・ 多くの世代や全ての地域で読書により“知識が増える”ことの利点を意識

Q4 読書をしない理由（単数回答：回答数 350）

○「特に理由はないが読書はしない」が約 4 割、「時間がないから」が約 3 割でした。

（結果概要）

- ・ 10 代後半で読書をしない理由は“特に理由はないが読書はしない”が最多の 35.9%
- ・ 30 代、40 代、50 代で読書をしない理由は“時間がないから”が最多

Q5 これからのボランティアや図書館に希望することについて [回答数 101]

○ 図書の充実、図書館内外の設備、イベント内容の充実の希望が多い結果です。

④ アンケート結果より

「読書をしますか」「本が好きですか」等の質問に対し、「読書をする」や「本が好き」といった回答はどのアンケートでも半数以上の割合ですが、年齢や学齢が上がるにしたがって、減少する傾向が見受けられます。

読書量についてはマンガや雑誌を除いての読書が月に「1～3冊」や1回の読み聞かせが「15分未満」の回答が半数以上を占めます。

読書をしない理由は「時間がない」「他にやることがある」「特に理由がない」が多い回答です。

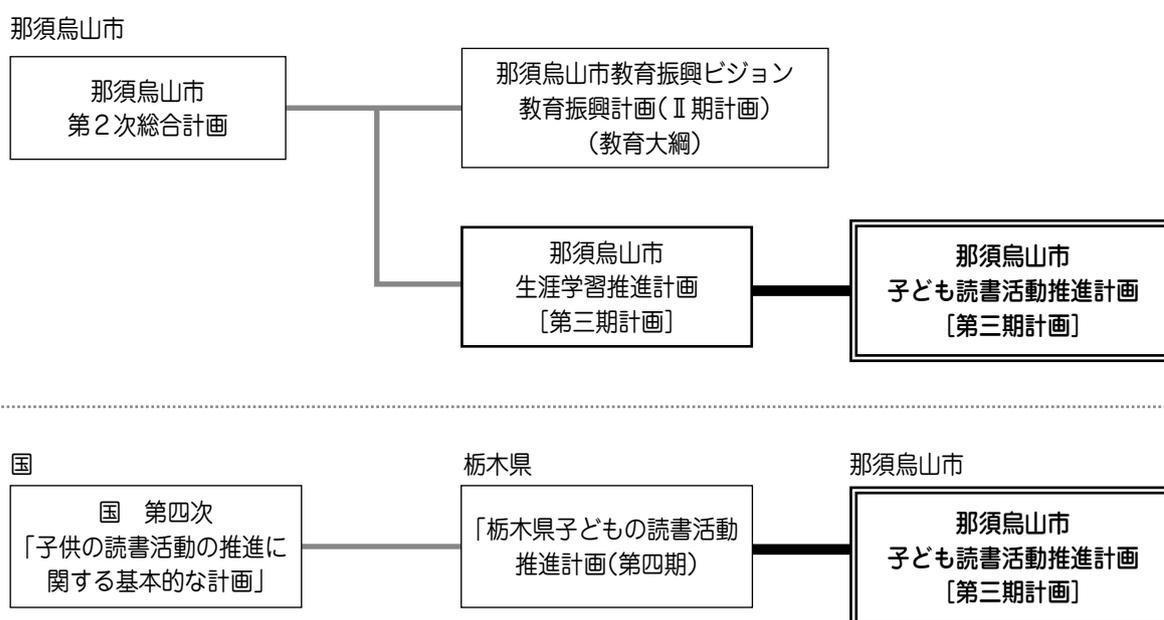
読書の利点について「知識が増える」「考える力がつく」などが意識されています。

図書館を利用しない理由については、「時間がない」「特に理由がない」「図書館が遠い」「あまり本を読まない」といった回答が多数でした。

第2章 計画の基本的な考え方

第1節 計画の位置づけ

那須烏山市子ども読書活動推進計画〔第二期計画〕の期間が平成29年度をもって満了となったことから、平成30年度に策定した那須烏山市第2次総合計画や平成28年度策定的那須烏山市教育振興ビジョン、平成31年度にスタートする那須烏山市生涯学習推進計画〔第三期計画〕等を踏まえ、継続的な子どもの読書活動の推進、青少年の健全育成を図るため、本市の基本的方向を示し、関連する施策を総合的かつ計画的に取り組むための指針として、本計画を策定します。



第2節 計画の対象

本計画の対象は、子どもの読書推進に関する法律に基づき、おおむね18歳までの未成年者となりますが、取り組みの主体は子どもの読書活動の推進に重要な役割を果たす保護者をはじめ、市民ボランティア、地域住民、学校、図書館、その他の行政関係者等も対象とします。

第3節 計画の期間

平成31年度から平成35年度（2023年度）までの5年間とします。

なお、計画の進捗状況や社会・経済情勢に大きな変化が生じた場合は上位計画等との整合性を図りながら適宜計画の修正・見直しを行います。

計 画	平成30年度	平成31年度 (2019年度)	平成32年度 (2020年度)	平成33年度 (2021年度)	平成34年度 (2022年度)	平成35年度 (2023年度)
国第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」	→					
栃木県子どもの読書活動推進計画（第四期）		→				
那須烏山市第2次総合計画	→					
那須烏山市教育振興ビジョン	→					
那須烏山市生涯学習推進計画 〔第三期計画〕		→				
那須烏山市子ども読書活動推進計画 〔第三期計画〕		→				

第3章 計画について

第1節 計画の基本方針

那須烏山市第2次総合計画と那須烏山市教育振興ビジョンの基本理念や生涯学習に関する施策、那須烏山市生涯学習推進計画〔第三期計画〕の図書活動に関する施策を実現するためにも、本市における子どもの読書活動の現状と課題を的確に把握し、市民と行政が一体となって子どもの読書活動の推進に取り組む必要があります。

また、国の第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画や栃木県子どもの読書活動推進計画（第四期）との整合性を図ります。

第2節 計画の基本理念と基本目標

○基本理念

子どもが生涯忘れられない本に出会える読書環境づくり

○基本目標

基本目標1 乳幼児期における読書活動の拡大を目指します。

基本目標2 児童生徒期における読書活動の定着に努めます。

基本目標3 子どもの読書活動の推進に関する環境の整備を図ります。

基本目標1 乳幼児期における読書活動の拡大を目指します。

乳幼児期における読書体験は、情操や感性の発達他に、言語の発達や読解力等の学習能力の発達、さらには人格形成にも大きく影響します。

子どもへの読み聞かせや昔話の語りを通して、絵本や児童書等の子どもの読書活動を推進することにより、読書習慣がしっかりと身に付いた子どもを増やすことを目指します。

基本目標1の具体的目標

①市内の幼稚園・保育園・認定こども園児の絵本や児童書等が好きな割合：92%

※子どもの読書活動についてのアンケート集計結果その1（那須烏山市）のQ2「お子様は絵本や児童書が好きですか」に対する「どちらかと言えば好き」と回答した割合88.3%から3.7ポイント増加した数値

基本目標2 児童生徒期における読書活動の定着に努めます。

学業や部活動等の様々な活動、テレビゲームやインターネット、映像や音楽等の娯楽、多様な選択肢が年齢とともに増加していきます。

そのような状況の中で、「子どもたちがどのようにして読書活動を行うようにするか。」「どのようにして読書活動に充てる時間を増やすか。」を考え、そのための施策を推進することにより子どもの読書活動の定着に努めます。

基本目標2の具体的目標

- ①市内小中学生がマンガ・雑誌以外の読書をする割合：72%

※子どもの読書活動についてのアンケート集計結果その2（那須烏山市）のQ2「マンガや雑誌以外の読書をしますか」に対して「する」と回答した割合67.2%から4.8ポイント増加した数値

基本目標3 子どもの読書活動の推進に関する環境の整備を図ります。

子どもの読書活動を推進するためには、子どもの読書活動の意義と重要性について、子どもに直接関わる大人はもとより、広く市民の理解と関心を深める必要があります。これらについて普及・啓発活動を図ることで、子どもの読書活動を推進する社会的機運の醸成と環境の整備に努めます。

また、子どもの読書活動を推進する中で大人自身の読書活動も活発化し、そのことにより、「子は親の背中を見て育つ」ということわざのように子どもの読書活動に好影響を及ぼすことも期待します。

基本目標3の具体的目標

- ①市立図書館での貸出利用者数（年間）：68,500人（直近の実績値：48,242人）

※那須烏山市第2次総合計画 基本計画 重点施策の実現に関する指標より

- ②市立図書館での子ども（18歳未満）の図書貸出冊数：57,000冊

※平成29年度 市立図書館での貸出冊数 54,881冊より2,119冊増加。

- ③市立図書館の入館者数：110,000人（直近の実績値：99,940人）

※那須烏山市第2次総合計画 基本計画 政策指標より

第4章 主な取り組み

基本目標1 乳幼児期における子どもの読書活動の拡大を目指します。

(現状と課題)

市内の幼稚園・保育園・認定こども園児の保護者を対象としたアンケートでは410人中352人の85.9%が子どもに読み聞かせをし、88.3%にあたる362人の保護者が子どもは「どちらかと言えば本が好き」回答していることから、市内の幼稚園・保育園・認定こども園児が読書好きである傾向がうかがえます。

しかし、1ヶ月当りの読み聞かせの日数は「週1日程度」から「週3日程度」が62.2%を占め、1日当たりの読み聞かせにかかる時間は「15分未満」が71.3%とのことでした。

また、読み聞かせをしないと回答した58人中、多かった理由は「時間がない」の36.8%、「特に理由はない」の25%でした。

子ども、特に乳幼児期の読書活動は、大人の積極的な働きかけが大切です。

(取り組み)

子どもの読書活動は乳児期の「お話し」や絵本などの「読み聞かせ」で、絵や図形、言葉や文字を覚えることから始まります。

幼児期には自主的な読書も始まりますが、大人からの読書活動の働きかけが重要な時期であり、子どもの生涯の読書活動に大きく影響します。

そのため、子どもの読書習慣の定着やより多くの良書に触れる機会を増やす取り組みを行います。

○家庭での取り組み

家庭での読み聞かせの普及・啓発の一環として、4か月児健康診査時にブックスタート事業（絵本の読み聞かせや読み聞かせ向きの絵本を無料配布等）を行っております。

家庭でのおはなしや読み聞かせにより、読書習慣の定着の他に情操等も育まれます。

○地域での取り組み

市民ボランティア等によるおはなし会や人形劇、読み聞かせや紙芝居劇等を行うことにより、子どもの読書活動への働きかけだけでなく、保護者の子どもの読書活動への理解を深めることにもつながります。

○幼稚園、保育園、認定こども園での取り組み

各施設では、教諭や保育士による読み聞かせや読書の時間を設け、その他に市図書館や市民ボランティアの協力を得て、人形劇や紙芝居劇等を行います。

○行政での取り組み

市図書館や市こども館でのお話し会や人形劇、紙芝居や絵本の読み聞かせ等の他、図書館まつり等のイベントを市民ボランティア等の協力を得て開催します。

基本目標 2 児童生徒期における読書活動の定着に努めます。

(現状と課題)

市内小中学校に通う小学5年生から中学2年生を対象としたアンケートでは、マンガや雑誌を除いた読書をするという回答が769人中517人の67.2%でした。しかし、1ヶ月当りの読書数は「1～3冊」が49.5%と半数近くを占めています。

マンガや雑誌以外の本を読まない主な理由は、「ゲームやTV等他に楽しいことがあるから」が39.9%、「特に理由がない」が36.6%、「時間がない」が13.8%でした。

マンガや雑誌以外の読書をする回答は、学齢が上がるに連れて減少しますが、「ゲームやTV等を好む」割合や「特に理由はない」と答える割合は逆に増加傾向にあります。

年齢に比例して、ゲームやTV等の娯楽の他にも、学業や部活動等の活動時間が増え、読書に充てる時間の減少や本離れが進みやすくなっています。

(取り組み)

児童生徒期における読書の量と質が、基礎知識や学力、教養や人格等に多大な影響を及ぼします。

子どもたちが、読書の楽しさや知識を得ること、好奇心を満たすことの素晴らしさを知り、本に接する機会が増えることで、子どもたちの限りある時間の中でより多くの読書活動に繋がるような取り組みを行います。

○家庭での取り組み

家庭での読書や「家読(うちどく)」(用語2)を推進するためには、家族の協力が不可欠です。そのためには、読書の効能や家読のメリットを伝えるための普及・啓発として、パンフレット配布や市図書館でのイベント等を行います。

○地域での取り組み

高校生対象のボランティア教室等を行い、将来の市民ボランティアを養成します。

○小学校及び中学校での取り組み

市内の小中学校では、「朝の読書運動」等で全校一斉に読書の時間を設け、読書の習慣化に努めています。

また、読書感想文コンクールへの参加により、子どもの読書習慣の定着や文章を読み取る力、文書作成能力の育成を促します。

学校図書館では、学齢に応じた図書資料を整備し、子どもの読書環境の整備に努め、朗読

や読書会等の学校図書館を活用した授業を実施。児童生徒から選出した図書委員等により、学校図書館の利用推進を図ることで、子どもたちの自主的な読書活動を促します。

○高等学校での取り組み

高等学校では、「読書コンシェルジュ（用語3）」や「ビブリオバトル（用語4）」等の活動により、生徒自身が読書の楽しさや素晴らしさを伝えることで、読書活動を推進します。

○行政での取り組み

市図書館では、児童生徒向けの図書や読書感想文コンクール選定図書を取り揃える等、読書に関する環境を整備します。

また、夏季休業中には、職場体験の一環として夏休み司書講座を開催します。

学校と図書館の連携事業として、希望する小学校に市民ボランティアと図書館職員で「訪問おはなし会」を実施し、また「学校巡回文庫」を実施して市内小中学校7校に図書の貸出を行っています。

用語2：家読（うちどく）

「家族ふれあい読書」を意味し、家族で本を読んで感想を言い合ったり、好きな本をすすめあったりなどの読書体験を共有することで、コミュニケーションを図る取組です。

用語3：読書コンシェルジュ

平成26年度から始まった事業で、栃木県が任命する高校生の読書活動推進リーダーです。

用語4：ビブリオバトル

「知的書評合戦」とも呼ばれ、おすすめの本を制限時間内で紹介し合い、ディスカッション等を経て、どの本が一番読みたくなったかを投票で決める競技です。

基本目標3 子どもの読書活動の推進に関する環境の整備を図ります。

(現状と課題)

各種アンケート結果から、子どもたちが「本が好き」や「(マンガや雑誌を除いた)読書をする」といった回答が半数を超えており、大人も同様に「読書をする」回答は全体的には半数を占めています。しかしながら半数を下回る世代もあり、読書活動が十分とは言えない現状です。

家庭や地域、学校や行政施設等における子どもの読書活動には、大人の理解とサポートが不可欠です。そのためには、子どもの読書活動の必要性や読書の有効性、有益性の啓発をすすめるためのサポート体制の醸成が必要です。

(取り組み)

大人への「子どもの読書活動推進」を行います。

子どもの読書活動の有効性や重要性等についての普及・啓発を行い、「子どもの読書活動推進」への保護者の賛同や、市民ボランティアをはじめとした地域住民の参加を促す取り組みを行います。

また、市図書館等の施設や蔵書等のハード面についての整備を進め、利用者の利便性を図ります。

○行政での取り組み

4か月児健康診査時に、絵本配布の他にパンフレットを配布し、読み聞かせについての啓発活動を行ってまいりました。また、市民ボランティア活動の拡充促進のために、市民ボランティアの養成講座を市図書館で開催いたしました。

今後は、市民ボランティア育成と家庭での読み聞かせの啓発を目的とした読み聞かせ教室、妊婦サロンでの妊婦対象の読み聞かせ教室の開催や母子手帳配布時の絵本配布等を検討します。

市図書館や市こども館ではおはなし会、おたのしみ会等の各種イベントを開催し、大人も来館した際に、子どもが読書を楽しむ様子や市民ボランティアの活躍を見ることで、大人に対する子どもの読書活動への理解や参加を促します。

また、市図書館は平成24年度より導入した指定管理者制度（用語5）による民間の力を活用した効率的かつ効果的な運営を行ったことにより、貸出冊数や貸出利用者数、入館者数は以前と比較して増加していますが、今後も更なる改善に努めます。

市図書館の利用者増加や利便性向上のために、近隣市町（平成29年度にさくら市と那珂川町、平成30年度に高根沢町）と協定を締結し、近隣市町の図書館で相互の住民が図書の館外貸出が可能となりました。

ハード面では、市図書館等の施設を来館者が利用しやすい環境に整備し、絵本や紙芝居等から児童書、一般書等の資料を充実させます。

市図書館の図書やCD等を含めた資料数は平成17年の約14万から平成29年には約24万となっております。

また、以前から、市図書館の蔵書やCD等の資料検索や貸出予約は、市図書館ホームページで可能でしたが、PRが十分ではなかったため、今後は市図書館が利用しやすいことをPRすることで、利用者の増加を図ります。

（ホームページからの貸出予約は図書館での手続き等が必要となります。）

※用語5：指定管理者制度

公共施設の管理運営を民間事業者やNPO法人等に委ねることにより、民間等のノウハウによって施設の管理運営等の効率化を図るものです。

第5章 資料

本計画は以下の関係法令等に基づき作成いたしました。

1. 子どもの読書活動の推進に関する法律

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第9条

- 2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するよう努めなければならない。

2. 文字・活字文化振興法

(地方公共団体の責務)

- 第5条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、文字・活字文化の振興に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

3. 学校教育法

(普通教育の目標)

第21条

- 5 読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと。

那須烏山市子ども読書活動推進計画〔第三期計画〕策定委員会名簿

(敬称略)

	所 属 等	氏 名	備 考
1	那須烏山市立図書館協議会 会長 (那須烏山市社会教育委員会兼公民館運営審議会)	高 橋 新 一	
2	那須烏山市立図書館協議会 副会長 (図書館ボランティアたんぼぼ)	杉 山 昭 子	
3	那須烏山市立図書館協議会 (学識経験者)	萩 原 紀 夫	
4	那須烏山市立図書館協議会 (那須烏山市家庭教育オピニオンリーダー)	岡 とよ子	
5	那須烏山市立図書館協議会 (おはなしの会そよかぜ)	森 成 さつき	
6	那須烏山市立図書館協議会 (那須烏山市立江川小学校図書教育担当教諭)	星 宮 真紀子	
7	那須烏山市立図書館協議会 (那須烏山市立烏山中学校図書教育担当教諭)	中 村 裕 子	
8	那須烏山市立図書館協議会 (学識経験者)	安 藤 準 一	

事 務 局

	所 属 等	役職等	氏 名	備 考
1	生涯学習課	課 長	柳 田 啓 之	
2	生涯学習課 生涯学習グループ	課長補佐	山 村 信	
3		主 事	小 堀 真 季	

那須烏山市立図書館

	所 属 等	役職等	氏 名	備 考
1	那須烏山市立図書館指定管理者	南那須図書館長	矢 口 由里子	
2		烏山図書館長	皆 川 久 子	

那須烏山市子ども読書活動推進計画〔第三期計画〕 策定経過

期 日	名 称	内 容
平成30年 11月26日	第1回那須烏山市子ども読書活動 推進計画策定委員会 (那須烏山市図書館協議会)	・計画策定方針について
12月26日	政策調整会議	・計画策定方針について
平成31年 1月11日	庁議	・計画策定方針について
1月16日	第2回那須烏山市子ども読書活動 推進計画策定委員会 (那須烏山市図書館協議会)	・計画(素案)について
1月23日	政策調整会議	・計画(素案)について
2月4日	庁議	・計画(素案)について
2月7日～ 3月9日	パブリックコメントの実施	・意見・要望0件
2月15日	教育委員会	・計画(原案)について
3月22日	教育委員会	・計画(原案)の承認について
3月26日	庁議	・計画(原案)の承認について
3月26日	計画決定の決裁	・計画の決定

那須烏山市生涯学習推進計画
子ども読書活動推進計画
[第三期計画]

平成 31 年 3 月 発行

編集・発行 那須烏山市教育委員会
事務局 那須烏山市教育委員会事務局生涯学習課
〒 321-0595 栃木県那須烏山市大金 240
TEL 0287-88-6223 FAX 0287-88-2027
E-mail : shohgaigakushu@city.nasukarasuyama.lg.jp
